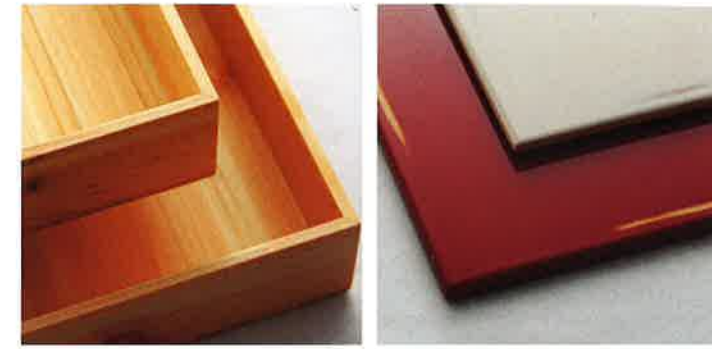




優しい艶

Njeco汎二段重箱(変根来)



四辺に光る金色の筋、深くしっとりとした艶、そっと漆の蓋を開けるとほのかに漂う檜の上品な香り——蓋の漆と重箱の檜、質感の違いが実にモダンな紀州漆器である。古くから私たちの暮らしの中に息づいてきた漆器は、重箱、汁椀、杯など日本の歳時記や生活とも密接だが、厳かで特別な印象を持つ。ところが「Njeco汎二段重箱(変根来)」は趣ある漆器ながらどこか軽やか。「洋室にも合う」というコンセプトから誕生し、「和」とはならぬ汎用性を持たせている。朱塗りに黒かすり模様の紀州漆器の手法のひとつ、「根来塗」をルーツとする「変根来塗」が蓋に施された重箱は、奥深い赤と、ほんのりとした乳白の2色展開だ。

根来塗は、根来寺で漆工の技術を身につけた僧侶が寺用の膳・椀などを作っていたことが起源とされている。当時は黒漆で下塗りし、その上に朱漆を塗ったものだったが、使い込む間に表面の朱塗が剥がれてしまい、黒漆が所々かすれて露出してしまった。その後、このかすれがかえって趣があると喜ばれ、故意に朱塗を研ぎ破ることで確立されてきた技法だ。この伝統的技法を踏襲している変根来塗は、

下塗に金色、中塗段階で金色の下塗を研ぎ出し、最後に上塗を施す。日数にして約30日、6〜7回の塗工程を経て仕上げられている。なかでも白漆を用いたものは珍しく、変根来塗の特徴のひとつでインテリアにもすっと溶け込む、漆の新スタイルと言えよう。

紀州漆器のメーカーである島安汎工芸製作所は、環境への取り組みも積極的だ。モダンにアレンジしたシリーズ「NEO JAPANESEQUE」の中で環境負荷が少ない素材を使用した「Njeco汎」ブランドの商品である重箱の本体は、世界遺産の熊野中辺路の森林育成に欠かせない檜の間伐材を使用。蓋は環境素材として注目を集めるMDF(注※)を用いて成型され、滑らで強度にも優れている。素材がすべてエコな重箱、しかも洗う度に本体の檜の香りが復活してくれるという妙味にも心が弾む。

茶巾寿司を詰めて行楽地へ、和菓子を入れておつかいものに、ごちそうを盛り付けておもてなしを……あれこれ使い方を楽しめるのもNjeco汎二段重箱ならではの。和洋問わず使う人の色に染まり変幻自在なところもまた、優しく粋であり、老舗の成せる技である。

(注※)ミディアム デンシティファイバーボード

Njeco汎二段重箱(変根来)

- サイズ:縦170×横210×高さ105(mm)
- 材質:本体:天然木(檜)、ウレタン塗装/蓋:MDF、漆
- カラー:白/赤
- 価格:5,250円(税込)

- 製造・販売:島安汎工芸製作所
- 問い合わせ先: 073-482-3361
- URL:<http://www.shimayasu.com/home/>
- 取り扱い:島安汎工芸製作所本社ショールーム(和歌山県海南市大野中507-1)/オンラインショップ【うるわしうるし】(<http://www.uruwashi-urushi.com/>)

